

ほんとうの道

あんなにも苦しんだのは、どうしても手放したくなかったから
あんなにも悲しんだのは、元の自分にもどりたかったから
すべてを失い、もどるところもないことをつきつけられ

荒野をさまよっていた

絶望は、ほんとうのわたし、ほんとうのいのちを宿すため

熟して落ちた果実そのもの

荒れ地にその実が落ち、一粒の種が、陽に向かう芽を育てていた

愚かなわたしは、苦しみと絶望にさらされてしか、ほんとうに生きることができなかった
心と体が壊れるまで、真実の扉を開けることができなかった

わたしはこれから、ほんとうの道を歩んでいけるでしょうか

この種が陽の光に導かれ、どうかまっすぐに芽をのばしていきますように